

第 269 回(5 月)

情報システムを支配するネットワーク環境とその整備

横河電機株式会社 業務改革本部情報化推進 Gr. 担当部長 村上伸之氏

パーソナル・コンピュータ(PC)からネットワーク・コンピュータ(NC)へと変化する時代を迎えて、変化に対応した情報インフラ整備が急務となった。従来の PC はスタンド・アロン型であり、ネットワークは付けたしに近く、メンテナンスは個人の責任であった。NC はハード・ディスクなしでサーバーに繋がっているため、メンテナンスは不要であり、しかもネットワーク上のソフトを読み込んで使うから、500\$ パソコンも可能になるのである。そうすると、NC は、ネットワーク環境の良否によって機能を制せられる。

このような環境下で、当社の Yokogawa-Global Information System も、トランザクション系と OA 系にはっきりと区分し、前者は国内 VAN、国際 VAN に繋げ、OA 系は Internet 上の電子メールや www に繋いだ。言い換えると、シンプルからコンプレックス型へと変えたことになる。

また、イントラネット化が進むに従い、業務遂行習慣の転換も必要になる。加えてネットワークも会社の資産だということから、これに損害を与えた場合の責任、安全のためのキーワード保守義務など、運用ガイドラインを作らなければならない。社内 Web と、社外 Web の間に Fire Wall をつけ、情報が外に漏れないような工夫も必要になる。

当然、情報管理部門の機能も情報資源管理へと変わり、IRM(Information Resource Management)の名称のもと、業務ルール、基本データ、情報システムがうまく回るように推進することが主たる業務となった。